

# 第5次豊田市障がい者ライフサポートプラン等に係る実態調査の結果について

資料 1

## 1 調査目的

障がい者の日常生活の状況やニーズなどを把握・分析するとともに、当事者や関係者の意向、課題認識等を抽出することにより、令和3年3月に策定した「第5次豊田市障がい者ライフサポートプラン」に関する今後の障がい者施策の推進に向けた基礎資料とすることを目的とする。

## 2 回収状況

調査種別	障がい者等実態調査 (以下(障)と表記)	市民意識調査 (以下(市)と表記)	事業所調査 (以下(事)と表記)
調査対象	①障がい者手帳所持者(身体・療育・精神) ②特定医療費(指定難病)受給者証所持者	18歳以上の市民	市内のサービス提供事業所(法人宛て)
実施期間	令和4年9月26日～令和4年10月21日		
配布数	3,000人	1,000人	124法人
抽出方法	無作為抽出	無作為抽出	全法人
回収数	<b>1,609/3,000</b>	<b>491/1,000</b>	<b>96/124</b>
回収率 (令和元年度)	<b>53.6%</b> (51.2%)	<b>49.1%</b> (45.5%)	<b>77.4%</b> (75.2%)

★ナッジ理論を活用し、往信用封筒に提出期限を目立つように記載  
⇒**前回より回収率 UP** (障)2.4ポイント増、(市)3.6ポイント増、(事)2.2ポイント増)

## 3 調査結果

※Pは別添報告書のページ数

### (1) 総合指標

総合指標	
「とても暮らしやすいまちだと思う」「どちらかと言えば暮らしやすいまちだと思う」と回答した障がい者の割合	
<b>60.1%</b> (令和元年度)	目指す方向  (障) [P131] <b>63.4% 達成</b> (3.3ポイント増)

<暮らしやすいと思う理由>	<暮らしやすいと思わない理由>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな支援、サービスが充実している</li> <li>・相談機関や発達センターなどの機関が必要なサポートをしてくれる</li> <li>・障がい者が働ける場所が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種手続きに時間と労力がかかる</li> <li>・市全体でまだまだ障がい理解が進んでいない</li> <li>・バリアフリーの場所、施設整備が整っていない</li> </ul>

### (2) 成果指標

施策分野 1	まちと心のバリアフリー
障がい福祉について「非常に興味がある」「ある程度興味がある」と答えた方の割合	
<b>53.8%</b> (令和元年度)	目指す方向  (市) [P171] <b>50.4% 未達成</b> (3.4ポイント減)

<b>施策分野 3</b> 意思疎通支援・情報保障 意思疎通に困ることがある機会について「よくある」「時々ある」と答えた障がい者の割合 <b>34.0%</b> (令和元年度) 目指す方向  (障) [P106]	<b>39.1% 未達成</b> (5.1ポイント増)
<b>施策分野 6</b> 防災・防犯 ①震災時・②風水害時のBCPを策定している障がい福祉サービス事業所の割合 ① <b>10.4%</b> (令和元年度) ② <b>7.5%</b> (令和元年度) 目指す方向  (事) [P205]	<b>①32.3% ②24.0% 達成</b> (①21.9 ②16.5ポイント増)
<b>施策分野 9</b> 生涯活躍 ①文化・芸術活動を行う障がい者の割合 ②スポーツ・レクリエーション活動を行う障がい者の割合 ① <b>29.3%</b> (H29) ⇒ <b>11.2%</b> (R2) ② <b>43.7%</b> (H29) ⇒ <b>60.8%</b> (R2) 目指す方向  (障) [P78] ※国が実施した調査における数値	<b>①12.4% ②21.6%</b> ※今後はこの数値を豊田市の基準値として経年比較をしていく ※②設問の違いにより国の調査と数値の差があり

## 4 調査結果を踏まえた今後の方針等について

- (1) 障がい福祉の関心度の向上について 【上記3(2) 施策分野1 関連】
- ◎障がい者との関わりによる『障がい福祉への関心度』の違い(市) 「身近にいる人」では61.5%、「身近にいない人」では38.0%が「関心がある」と回答 ⇒バリアフリー推進講座、イベント出展、手話等の体験講座をとおして関心度を高める。
  - ◎『障がいへの理解や配慮をより深めていくために必要なこと』(障)・(市) [P126,178] 「学校教育での障がい理解のための教育の推進」(障)44.5% (市)59.9% ⇒教育分野と連携を図りながら、引き続き小学校等における障がい理解のための授業を実施
- (2) 意思疎通支援について 【上記3(2) 施策分野3 関連】
- ◎『意思疎通で困る場面』(障) [P107] 手帳別で多い種別 → 療育 63.4% 精神 58.7% 具体的な困る場面 → 「医療機関」36.2% 「近所の人や地域の集まり」31.1% ⇒継続的な啓発活動で市民一人ひとりの障がい理解の促進と意思疎通への配慮の意識を醸成 ⇒医療機関版コミュニケーション支援ボードの新規作成やコンビニ版の展開により意思疎通のきっかけづくりを実施
  - ◎『「相互理解と意思疎通に関する条例(略称)」の認知度』(障)・(市) [P121,177] 「名称のみ」(障)8.1%(市)12.0% 「名称と内容」(障)1.3% (市)1.8% ⇒条例の行動計画に沿って、引き続き当事者団体等と協力のもと条例の更なる普及啓発を目指す。
- (3) 人材の確保について 【施策分野4 関連】
- ◎『人材確保の課題』(事) [P195] → 「一定の技術を持つ人材の確保」43.8%
  - ◎『将来の不安』(障) [P134] → 「家族以外の介助、支援者の確保」47.5% ⇒強度行動障がい等の専門的な支援者養成研修、豊田市地域自立支援協議会での各種研修の開催